

いばきた

デザイン プロジェクト レポート

IBA-KITA
DESIGN PROJECT
REPORT

02

2019 / 3



お問い合わせ
茨木市 都市整備部 北部整備推進課
〒567-8505 茨木市駅前三丁目8-13
電話：072 (620) 1609
ファックス：072 (620) 1730
メール：hokubuseibi@city.ibaraki.lg.jp

次なる
茨木へ。

車作地域 安威川上流の溪谷「竜仙峡」。紅葉の季節には、河川沿いの山々が美しく色付き、しばし日常を忘れさせる幻想的な風景が広がります。

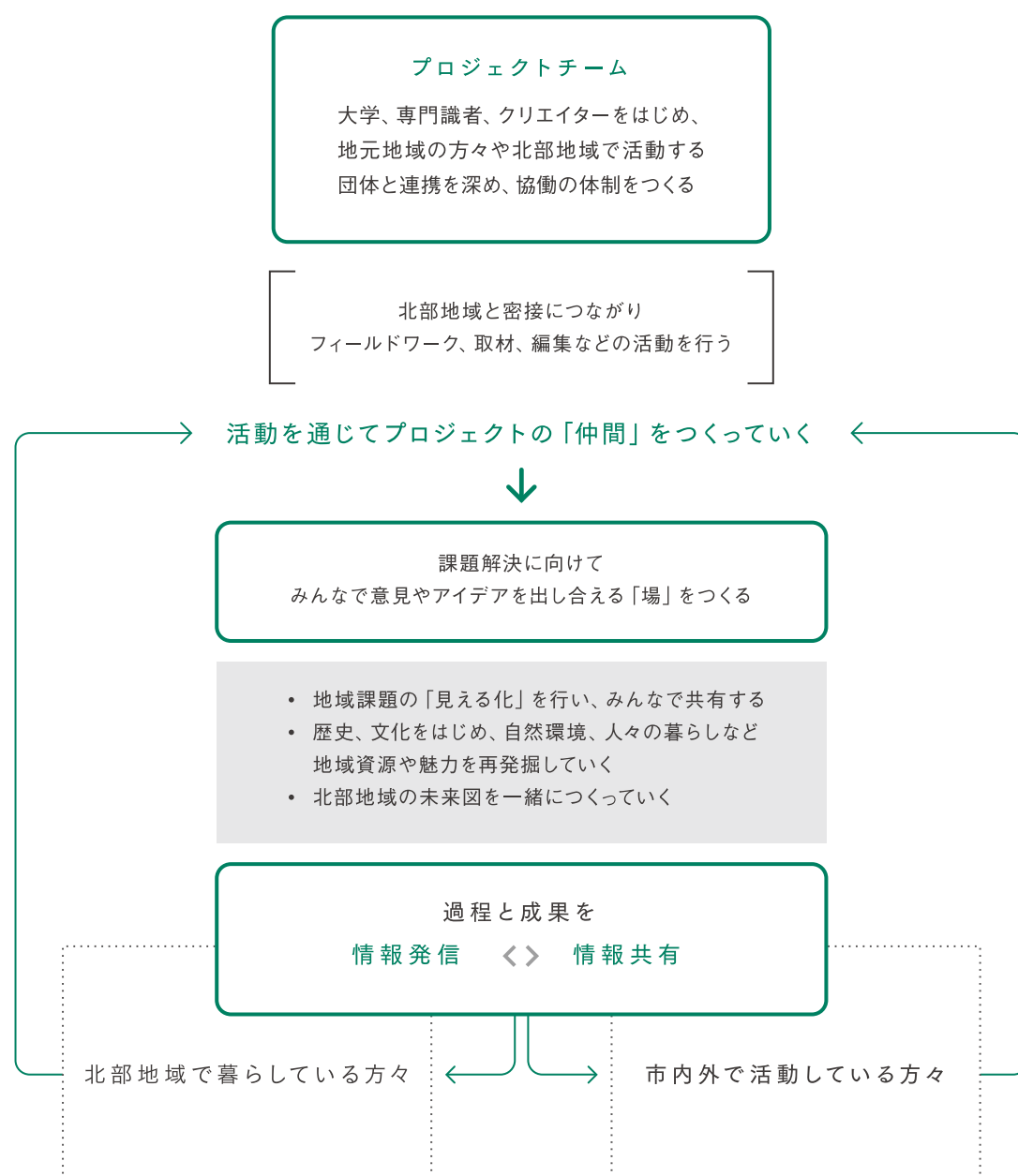
茨木市北部地域の課題解決を目指して。

茨木市は、大阪市や京都市へアクセスしやすく、大学・高校をはじめとする教育機関、ショッピングモール、商店街、飲食店などの商業施設も充実していることから、関西圏の中でも「住みよいまち」「利便性の高いベッドタウン」として評価が高く、茨木市全体の人口推移は毎年増加傾向にあります。一方、北部山間地では、若者を中心とする人口流出と農林業従事者の高齢化により、産業や環境保全の停滞が続いています。特に問題となっているのが、山間地の「深刻な過疎化」です。茨木市の全面積の約半分が山間地にあたりますが、市街地の人口に対して約1%という統計もあります。

いばきたデザインプロジェクトでは、このような課題解決に向けて、地元で暮らしているの方々をはじめ、市内外のさまざまな人たちが北部地域に関心を持ち、みんなで考え、一緒に取り組んでいくことができる「仕組み」をデザインしていきます。

いばきたデザインプロジェクトは、平成30～32年度の3年間を実践期間としています。活動の過程や成果を編集し、期末ごとに「冊子」を発行します。1年目は、「旧見山村地区」と「見山の郷」を対象にしています。

課題解決に向けた「仕組み」をデザインする。





地元の方々との交流を深め、北部地域の課題解決に向けて一緒に取組んでいきたい。

大阪大学大学院 工学研究科の学生が「銭原」でフィールドワークを行いました。

茨木市北部の地域資源、魅力を掘り起こし、地元と市内外の人たちが一緒になって、新たな価値創出を目指していく「いばきたデザインプロジェクト」。大阪大学大学院工学研究科 環境・エネルギー工学専攻都市環境デザイン学領域の学生とチームを組んで実施されるフィールドワークでは、地元の才脇芳喜さんのご協力により、銭原地区を案内していただきながら、地域の歴史や人々の暮らしについて、とても有意義なお話を伺うことができました。このような調査をはじめ、地域に関する資料の収集と分析、まちづくりに活用できる資源データベースづくりを通じて、地域の可能性を導いていきます。



地元の才脇芳喜さんに、集落に点在する神社や寺を案内していただきました。銭原地区の歴史を紐解き、次代につながる地域の価値を見出していくための機会となりました。



見山の郷 オリジナル商品開発「採れたて新鮮野菜 & 果実のコールドプレスジュース」。

見山の郷と摂南大学経営学部のコラボレーション企画として、コールドプレスジュース開発がスタートしました。人参×葡萄×白菜×生姜など、見山の郷の採れたて素材による濃厚ブレンドジュースづくりから実演試飲会を行いました。お買い物や食事をされているお客様へ、学生たちが声を掛け、ジュースを味わっていただきながら、アンケート調査を実施。試飲されたほとんどの方が「美味しい!!」と上々の評価。この経験を活かし、今後は、定期的に行うイベントでの提供、または、ジュースを取り入れた新しいセットメニューづくりなどにチャレンジしていく予定です。



コールドプレスジュース

通常のミックスジュースは高速回転によって遠心分離する方法が主流。しかし、この方法だと材料に熱が加わり、空気に触れて酸化が進み、栄養が失われます。コールドプレスジュースは、低速回転のジュースャーで材料を強い圧力ですりつぶして絞り出すので、加わる熱も少なく、野菜や果実の栄養をたっぷり残すことができます。



見山の郷スタッフとお客さんと学生による「交流の場づくり」の新たな可能性を見出すことができました。



「デザイン屋台」を活用していくことで、新しい顧客獲得につなげていきます。

安威川ダムファンづくり会が推進する「間伐材活用による森林保全プロジェクト」と「いばきたデザインプロジェクト」の協働によって完成した「デザイン屋台」。コミュニケーションツールとして積極的に活用していくことで、見山の郷の施設内外でのイベント企画、新しい顧客獲得に向けたブランドイメージづくりに役立てていただきたいと思います。